

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

(1) 生徒の心をたがやす道徳の授業づくりの研究

外部講師を招聘し、年4回にわたって計画的に授業研究会を実施した。授業における「発問」、「教師の出」、「ふり返りの場」を視点として、生徒の心をたがやすための授業づくりについて全職員で考え、学ぶことができた。また、読み物資料の分析の仕方や模範授業の参観といった研修会も実施した。その結果、担任のない職員も積極的に道徳の授業づくりの話し合いに加わり、道徳の授業に取り組むことができたのは大きな成果である。

(2) 日常の活動から、生徒たちの心をたがやす方策の研究

日常の活動である生徒会・委員会活動、学校行事などを生徒主体の企画・運営にして実施したことで、自分たちだけでなく、まわりの人のことを考えて行動しようとする心がたがやされた。また、寺中ハートタイムや視写の活動も生徒の心をたがやす一助となった。

(3) 地域・保護者との関わりを通して、生徒の心をたがやす活動の研究

寺津地区の行事やボランティアに積極的に参加し、寺津地区の人たちと交流しながら活動したことで、寺津地区の人たちの思いにふれることができ、生徒たちの寺津地区を愛する心がたがやされた。

1 研究推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
西尾市立寺津中学校	西尾市巨海町若宮西5番地	0563(59)6521	218人	

2 研究課題

(1) 生徒の心をたがやす道徳の授業づくりを研究する。

- ① 外部講師を招聘した計画的な授業研究会を実施し、授業における「発問」、「教師の出」、「ふり返りの場」など、道徳の授業方法について研究する。
- ② テーマに迫り、生徒の興味・関心をひきつける資料を開発する。
- ③ 授業の中で互いの考えを「伝え合う場」を設定し、その方法を研究する。

(2) 日常の活動から、生徒たちの心をたがやす方策を研究する。

- ① 生徒の心をたがやす生徒会・委員会活動の在り方を研究する。
- ② 日常の時間の中に寺中ハートタイムを設定し、心を育む手だてを研究する。
- ③ 自分たちの手で企画・運営をする行事の在り方を研究する。

(3) 地域・保護者との関わりを通して、生徒の心をたがやす活動を研究する。

- ① 地域へのボランティア活動を活性化する。
- ② 地域行事へ積極的に参加する。
- ③ 一小一中校区の特性を生かした、小中連携の活動を模索する。

3 研究主題

『特別の教科 道徳』を要とした道徳教育の充実
—カリキュラム・マネジメントを生かした、生徒の心をたがやす、
効果的かつ多様な指導方法と評価の工夫・改善—

※「たがやす」とは、いろいろな考え方や価値観にふれることで、自分の心を豊かにして、よりよく生きていこうとする気持ちを育むこと。

(1) 本校の教育理念

本校では、合い言葉「想」のもと、めざす学校像を「明るく 前を向き 人を想うことができる学校」として、「明るく活気ある生徒」、「向上心あふれる生徒」、「想いやりのある生徒」の育成に努めている。



「想」は 「木=人」と「目=見る」と「心=考える」からできています。
人（相手や自分）を見つめて、心から考えられる人

(2) 本校の概要と生徒の実態

本校は、全校生徒218名という小規模中学校であり、また、中学校区内には、一つの小学校しかない一小一中という環境にある。保育園からずっと同じクラスという生徒も珍しくない。性格は、素直で純朴な子が多い。

しかし、一小一中という環境にあるため、新たな出会いがほとんど期待できず、多様な価値観に触れる機会が少ない。中学校に入学しても小さいころからの人間関係を引きずっている姿がよく見られる。リーダーを選出するときには、「どうせあの子がやるだろう」と決めてかかったり、「あの子はちょっと変わった子」と、昔からの印象で相手を見たりしがちである。

私たちは、そんな生徒たちに、授業や学校生活、地域の場でさまざまな考えや価値観を交流させることで、心をたがやしたいと考えた。

(3) 研究実績と教師の構え

本校では、「自ら学ぶ喜びを感じることでできる生徒の育成」をテーマとして、教科学習において、授業の導入を工夫したり、学び合う場を設定したりして授業改善に取り組んできた。特に、学び合う場の工夫として、教科の内容によって、「ペアトーク」「グループトーク」「フリートーク」を授業の中に取り入れてきた。その結果、「なるほど、答えの見つけ方は一つじゃないんだ。」など、お互いの考えを生かせるようになってきた。

そこで、道徳の授業においてもお互いの考えを話し合う場を工夫することで、自分の価値感をあらためて見つめ直させ、道徳的心情を育みたいと考えた。

また、本校職員、特に担任は6人中5人が20代とたいへん若い構成となっている。道徳の授業については、発問に対して、生徒は意見を言うが、それに対して問い返したり、全体に広げたりしながら考えを深めさせられないのが現状である。道徳の教科化を考えたとき、職員全体でも授業の力を高める必要がある。

そのために、道徳資料の収集や開発、授業における発問の吟味、伝え合いの場の工夫、評価の方法等の研究をすすめたり、道徳強調月間を設定し、全職員が授業実践をしたりして、授業力のアップを図りたいと考えた。

(4) 地域とともに進める道徳教育

寺津中学区は、一小一中ということもあり、「おらが学校」という意識が高く、学校教育に対しても協力的な地域である。体育大会や文化の集いには、多くの来賓や地域の方々の参観があり、また家族全員で見学という家庭も珍しくない。

このような恵まれた地域環境の利点を生かし、地域の方を講師に招いたり、また、地域行事に参加したりすることで道徳的実践力を育みたいと考えた。

次年度より、「特別の教科 道徳」が中学校で開始される。これを機会に、生徒の実態や地域の特色をふまえた道徳教育のあり方を模索するとともに、生徒の心をたがやす授業づくりめざして、本主題を設定した。

4 研究の概要

「生徒の心をたがやす」をテーマに、以下の3点を重点目標として、研究を進めていく。

- ① 考えを伝え合う授業づくりを工夫して生徒の心をたがやす。
- ② 行事や生徒活動を工夫して生徒の心をたがやす。
- ③ 地域・保護者との関わりの場を工夫して生徒の心をたがやす。

「考えを伝え合う授業づくりを工夫して生徒の心をたがやす」ために、外部講師を招聘し、道徳の授業を行うにあたって必要な教材研究や指導方法、評価方法について校内研修を行い、生徒たちの道徳的心情を育む道徳の授業づくりを研究する。また、「行事や生徒活動を工夫して生徒の心をたがやす」や「地域・保護者との関わりの場を工夫して生徒の心をたがやす」ために、各教科、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事との関連を図りながら、学校全体で道徳教育の充実をめざす。

5 研究計画

月	実施内容	備考
4月	・道徳教育の全体計画・年間指導計画・別葉の作成 ・授業参観（全学級道徳授業） ・現職教育（道徳）の方針・重点目標の設定	
5月	・道徳の時間の授業研究 ・寺津小テント張りボランティア	石川雅春 様
6月	・生徒・教師へのアンケート調査 ・学校訪問（指導主事による助言）	
8月	・地域行事への参加 ・外部講師による小中合同研修会	前田 治 様
9月	・前期の取組に対する分析と改善点の考察 ・小中合同道徳授業（教育講演会）	
10月	・道徳の時間の授業研究 ・道徳強調月間（全職員による道徳授業公開、意見交換） ・矢作川と海のクリーン大作戦ボランティア	石川雅春 様 水野達彦 様 地域講師3名
11月	・道徳の時間の授業研究 ・「文化の集い」に向けての実行委員会活動	石川雅春 様
12月	・学年ボランティア活動（地域の神社清掃活動）	

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教師へのアンケート調査 ・道徳の時間の授業研究 ・学年ボランティア活動（地域の公共施設清掃活動） 	水野達彦 様
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ボランティア活動（小学校での清掃活動） ・卒業式に向けての実行委員会活動 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・寺中ハートタイム（常時） ・委員会ごとのボランティア活動（常時） ・行事の準備・企画を行う実行委員会活動 	

6 これまでの取組と成果

(1) 生徒の心をたがやす道徳の授業づくりの研究

① 外部講師を招聘した授業研究会

ア 第1回授業研究会（5月実施）

講師 西尾市立西野町小学校長 石川 雅春 様

〔学級〕1年2組 青木 康浩 教諭

- ・内容項目A-5 真理の探究 資料『聞く地蔵と聞かぬ地蔵』
- ・本時の目標

理想の実現に向かって、他者に頼らず自分自身が努力をしていくという気持ちを本資料の村人になりきることを通して高める。



(授業研究協議会で出された意見)

- ・本時で扱った資料を授業者が紙芝居にアレンジして提示したことで、生徒たちは内容を理解しやすくなり、自分の考えをしっかりと、授業に取り組むことができたのはよかった。
- ・グルーptークでは、村人になりきって自分の考えを伝え合えるように、「グループ」＝「村」として考えさせたが、自分の考えを積極的に出し合っているグループが多く見られ、その後の全体での話し合いが活性化してよかった。
- ・地蔵ありきの考えが出ていたところで、揺さぶりの一手として「地蔵がなかったらどうなっていたらだろうか？」と発問をした結果、「やっぱり自分たちで何とかしないとイケない」と考える生徒が出てきてよかった。

(講師からの指導)

○「発問」について

- ・同一人物の心情のみを追う発問ではなく、別の人物の心情を問う発問や「自分だったらどう思うだろうか」といった発問をしていくのもよい。
- ・「なぜ?」、「どうして?」といった分析的な発問もよい。
- ・「どうしたらいいの?」といった行動を問う発問は生徒の内面を見ることができる。

○「評価」について

- ・評価の基盤に「共感的な生徒理解」を置く。
(子ども自身が自らの道徳性を養おうとする意欲を引き出すためのものでありたい)
- ・教師が指導計画、指導方法をふり返り、その成果を確かめ、次の指導に生かすためのものである。
- ・板書記録や授業で書かせたワークシートを蓄積し、日々の授業評価を大事にしてほしい。
(日々の授業評価→通知表などによる評価→年度末に行う指導要録の評価)



村人になりきって自分の考えを伝え合う生徒



石川雅春様による指導

イ 小中合同研修会（8月実施）

講師 愛知学泉大学教授 前田 治 様

寺津小・中学校職員合同で「道徳の授業づくりを考えよう」をテーマに、実際の資料をもとに道徳の授業づくりについて研修した。

(授業づくりの手順)

とにかく資料を読み込む

生徒に考えさせたい中心発問を決める

中心発問から内容項目が決まる

内容項目に関して道徳的価値を高めたい生徒 核とする生徒A

発言の予想をして、授業展開を考える

※授業では、生徒Aが発言しなくてもよい
周りの生徒の発言を聞かせる 意図的指名でよい

(参加した教諭の感想)

いつも道徳の授業を考えるときには、指導書をたよりにしていました。指導書どおりの発問をして、何人かの生徒が答えて終わるという授業でした。深まりに欠けるなあといつも感じていました。

しかし、今回のように、手順を踏んで、自分で指導案を組み立てることが大切であることがわかりました。

2学期に実践したいと思います。



中心発問で議論する教諭たち

ウ 第2回授業研究会（10月実施）

講師 西尾市立西野町小学校長 石川 雅春 様

〔学級〕3年2組 岩田 栞璃 教諭

・内容項目C-10 遵法精神、公德心 資料『ここを走れば』

・本時の目標

法律を守るべきか、家族への気持ちを大切にすべきかを考えることで、自他の権利を大切に、規律ある、安定した社会を築こうとする気持ちを育てる。



(授業研究協議会で出された意見)

- ・「父の判断についてどう思う？」と考えさせた後、「あなたならどうする？」と問いかけ、自分ならどちらを優先するのかを考えさせた。その後、自分が優先する方のカード（赤→命、白→法）を胸ポケットに入れさせ、フリートークを行った。自分とは違うカードを入れている仲間に積極的に考えを聞きに行く姿が見られ、その後の全体での話し合いが活性化してよかった。
- ・「命はみんな平等だから法がある」というAさんの意見から、「Aさんはこう言っているけど、みんなはどう思う？」と切り返してみてもどうか。人の命に対する考えがより深まったのではないか。
- ・法が100%優先であるという生徒ばかりでなく、意見を聞いている生徒の表情から、法が60%、命40%といった生徒もいるのではないかと思った。ものさしやバロメーターとして表して話し合わせてもよかったのではないかと感じる。

(講師からの指導)

○話し合う場について

- ・「考え、議論する道徳」→話し合いとしてはどうであったか、常に検証してほしい。
- ・「△△さんの意見に反対で・・・」といった、他の考えからつなげていく言葉を入れることで、深まりのある話し合いを行うことができる。
- ・意見を書かせるのはよくない。話し合いを活性化するためのワークシートの使い方を考えたい。書かせてから話し合う形式にこだわらない。

○繰り返し発問について

- ・あいまいな発言で掘り下げたいところは問い返す。
例「人として正しい行動」→「これってどういうこと？」
「暗示している」→少し経ってから「さっきの暗示しているってどういうこと？」



私は法を守る方が大事だと思うけど・・・



Aくん「命はみんな平等だから法がある」

エ 第3回授業研究会（10月実施）

講師 名古屋経済大学・愛知教育大学・名古屋大学・愛知産業大学講師 水野 達彦 様

〔学級〕2年1組 尾崎 拓也 教諭

- ・内容項目C-10 公德心 資料『バスと赤ちゃん』
- ・本時の目標

乗客たちの気持ちを多角的に考えることで、みんなで生活している場面では、お互いの思いやる気持ちや気遣いが大切であるという意識を高めることができる。



（授業研究協議会で出された意見）

- ・共感的資料で行う道徳の難しさを感じた。共感的資料は、意見の対立がないので、生徒の意見をどうキャッチして、どう生かしていくのかコーディネートする力をもっとつけなければいけない。
- ・運転手の発言に対して「めんどくさい」という意見が出たが、そこで首を傾げていた生徒がいたため、そこで「どう思う？」と切り返して聞いてもよかったのではないかな。
- ・「バスに乗っている人の気持ち」を生徒たちに感じさせることが重要であったのではないかな。ここで共感させ、心の葛藤に気づかせたかった。善と悪の二択ではなく、どちらも自分の心に共存しているもので、どちらの気持ちも持っている…その上で考えさせたかった。



班でのグループトーク

（講師からの指導）

○グループトークについて

- ・在り方はさまざまな形態がある。班で深める、その後の全体での話し合いにつなげる（勢いをつける）などクラスの実態に合わせて使えばよい。

○共感的な資料で客観的な意見に対してどう対応するか

- ・「あなただったらどうするか」と自分のこととして考えさせる。もしくは「あるかもしれんね」とさらっと流すべき。

○道徳教育について

- ・道徳は、友達との対話が全てではない。かかわり合いの場を通して、その後の自己内対話がどう行われているが大切である。だからこそ、グループやペアでの話し合いの中では深めることだけを目的としなくてもよい。

○教師の支援について

- ・授業の中での教師の出場は5つのパターンがある。「A 任せる・見守る」「B 認める・評価する・生かす」「C 気づかせる・焦点化する・提案する」「D 軌道修正する・断ち切る」「E ゆさぶる・さぐりを入れる」、授業の中を見取り図にして具体的にどこでどう教師が支援していくか考える。



講師の水野達彦様による指導

オ 第4回授業研究会（11月実施）

講師 西尾市立西野町小学校長 石川 雅春 様

〔学級〕2年2組 岩貝 幸亮 教諭

- ・内容項目D-22 よりよく生きる喜び
資料『銀色のシャープペンシル』

- ・本時の目標

「ぼく」の心の弱さを認めて乗り越えるまでの心の揺れ動きに共感し、気高く生きようとする心があることに気づき、よりよく生きようとする気持ちを高める。



(授業研究協議会で出された意見)

- ・教室の天井に星空を映し出したことで、『光り輝く星を眺めながら、「ぼく」はどんなことを考えていたのだろうか?』という発問に対して、星空を見ながら「自分の気持ちに素直になろうと思った。」「星の光のようにまっすぐな気持ちになる。」といった意見が生徒たちから出された。星空を映し出したことで、教材の「ぼく」の心情に生徒たちが共感しやすくなるとともに前向きな考えを生み出すのに有効であった。
- ・机間指導をしながら、生徒の考えを把握し、意図的指名をしたのはよかった。「自分をふり返って恥ずかしくなった」など、さまざまな考えを生徒が共有することができた。

(講師からの指導)

○授業について

- ・書かせずに生徒の言葉だけでつないで授業構成をしたのがよかった。
- ・生徒の発言の後に、よい言葉やキーワードをもっと箇条書きで板書することで、深める話し合いへと移行することができたのではないかと。また、「星になにを見たの?」と聞くと発問がより子どもの中に落ちたのではないかと。



星空見た後、抽出児Bも「ずるいのはだめだと思う」と今の素直な気持ちを語った

カ 校内道徳授業研修会 (模範授業参観) (1月実施)

講師 名古屋経済大学・愛知教育大学・名古屋大学・愛知産業大学講師 水野 達彦 様

水野様が寺津中学校の3年1組で道徳の模範授業を行い、全職員で参観。その後、研究協議会、水野様による道徳の授業づくりについて講義を実施。

- ・内容項目A-4 希望と勇気、克己と強い意志 (理想の実現に向けて)
資料『岐路』、『風に立つライオン』

・本時の目標

理想の実現を目指して、目の前の課題に誠実に向き合い、悩み、苦しみながらも、自分なりに最善の道を探り続けようという道徳的実践意欲を培う。

(参観者の感想)

- ・温かい空気に包まれ、生徒たちにとって居心地のよい授業になったのではなかったか。水野先生が意見をすべて受け入れてくれたから、生徒は安心し、今回のような雰囲気になったのだと思う。自分も実践できるようになりたい。
- ・意見を書かせるとどうしても時間を取りすぎてしまい、授業のよい流れを止めてしまいがちだが、水野先生の授業は、意見を書かせた後、グループトーク→相互指名を取り入れた生徒たちの発言とつなげ、授業のテンポがよかった。見習いたい。
- ・キーとなることば、残したいことばを瞬時に要約し、板書することで、生徒の発言の勢いを止めることがなかったのはなかなかできないことだと感じた。ぜひ、チャレンジしていきたい。
- ・生徒の意見を把握するのが早くてびっくりした。机間指導のコツを教えてください。
- ・生徒からいろいろなことばを引き出せるのがすごい。ほめることばのレパートリーが豊富で、今後参考にしたい。

(講師からの指導)

○机間指導について

- ・要約力を身につけたい。(生徒たちの意見を瞬時に要約し、なるべく一語で板書する)
- ・生徒の意見が光って見えるかどうかは教員の熱意次第である。だから、生徒の意見は拾えるものをどん欲に拾っていききたい。

○道徳の授業について

- ・「?」をたくさん与えたい。先生の求めている答えを出させないようにしたい。
- ・誰が言った意見も共感し、みんなで共有できる時間としたい。

○「伝える」技術をみがくについて

- ・大切なのは「伝える」ことではなく、「伝わる」こと。
- ・ノンバーバル (非言語) の重要性。
(表情・姿勢・距離・身ぶり・手ぶり・アイコンタクト・呼吸など)
- ・肯定的な言い回しを心がけたい。

② 地域の方を招聘した道徳強調月間

本校は担任以外の教員も道徳の授業に取り組み、道徳の授業力向上をはかった。寺津総代や寺津コミュニティ推進協議会長といった寺津校区に住む地域の方を招聘し、「教師が道徳の授業に楽しく取り組んでほしい。」「授業の中で、一人でよいので、本時の価値に気づかせてほしい。」といったご意見をいただいた。

10月9日(火) 授業者2限 古崎康之教諭 岩田栞璃教諭
3限 杉浦祐太講師 神尾愛理講師
講師…寺津総代

10月10日(水) 授業者2限 尾崎拓也教諭、平林由貴恵教諭
3限 下村晴彦教諭、榊原一英教諭
講師…学校経営アドバイザー

10月12日(金) 授業者2限 杉浦郁子教諭、加藤瑞樹教諭
3限 青木康浩教諭、岩貝幸亮教諭
講師…寺津コミュニティ推進協議会長

10月23日(火) 授業者5限 中村晴枝教諭、加藤靖彦教諭
講師…寺津小校長



(2) 日常の活動から、生徒たちの心をたがやす方策の研究

① 生徒の心をたがやす生徒会・委員会活動

年間の生徒会活動計画を生徒会役員や各委員会の委員長を中心に作成させ、重点目標をもって、日々の活動に取り組めるようにしている。

今年度の生徒会のスローガンは、

「ハッピー ハッピー ハッピーターン」

これは自分が幸せになるだけでなく、相手を思いやることでお互いが幸せになるという意味が込められている。このスローガンを常に念頭におきながら、日常の活動が行われている。

生徒会のスローガンが形となったのが、体育大会。全校生徒がハッピーな気持ちで終われるように、競技の最後に「全校マイムマイム(フォークダンス)」を計画した。全校生徒だけでなく、教師、来賓や観戦に来られた保護者も巻き込んで、手をつなぎ、笑顔と思いやりがいっぱいのひとときとなった。



親子で手をつなぎ、ハッピーなひととき

② 日常の時間の中に心を育む寺中ハートタイム

月曜日の朝の時間を寺中ハートタイムの時間としている。

道徳の授業で自分の考えを深め、心をたがやすためには、友達の考えを伝え、それを認め、受け入れていくことができることが必要と考え、グループトークを行っている。

「タイムマシンがあるとしたら、どの時代に行きたいですか」等の簡単な質問をお互いにし合い、必ず、その回答に感想を返す活動等をしている。

また、ハートタイムでは、隔週で、視写も行っている。教師が生徒たちに伝えたいことを原稿用紙1枚分にまとめ、それを



楽しく取り組む寺中ハートタイム

生徒が書き写すというものである。書き写す前に担任が丁寧に朗読することで、筆者が伝えたいことを生徒に感じ取らせる工夫をしている。

視写原稿の一部

自分の目の前の人が笑顔になってくれる最近、うれしいなと思うようになったことです。今思えば、私が初めてこの感覚をもったのは、中学二年生のときです。

【中略】

それから二十五年。今でも人前で話すことは苦手で、一人で過ごすことが好きなのは変わらないけれど、誰かを笑顔にしたいなと思うようになりました。人を笑顔にさせることは、自分自身も笑顔になれる幸せな気持ちになるのだと思います。

誰かのため、自分のために、今日一日、あなたは誰を笑顔にしますか。



心を落ち着かせて取り組む視写

③ 自分たちの手で企画・運営をする行事

寺津中学校では、生徒主体の行事となるように努めている。

泊を伴う校外学習、寺中文化の集い、卒業式、茶摘みといった行事では実行委員を募り、企画や会場準備、運営を生徒自身で創り上げている。

各実行委員会では、3年生を中心に小委員会に分かれ、

3年生が1、2年生とともに活動をしている。上級生はよい姿を下級生に残したい、下級生は上級生のようになりたいという意識を高めている。



会場作りは… 卒業式実行委員会



1年生に摘み方を教える

茶摘み実行委員会

(3) 地域・保護者との関わりを通して、生徒の心をたがやす活動の研究

① ボランティア活動の活性化

寺津小学校の運動会前に、生徒会が中心となり、小学校のテント張りボランティアを行った。全校生徒の3分の2がこのボランティア活動に自主的に参加し、学年をこえて協力し合う姿が見られた。1時間程で張り終えたテントを見て、生徒たちは大きな達成感を得ることができた。

他にも、神社清掃や保育園清掃など、地域へ出かけてのボランティアも実行し、寺津地区をハッピーにしようとしている。



母校のためテント張りボランティア

② 地域行事への積極的な参加

寺津地区の行事にも積極的に参加している。今年度は夏休みに行われた盆踊り大会に初めて参加し、2日間、寺中ソーランを披露した。生徒たちに参加を呼びかけたところ多くの生徒が自主的に手を挙げた。

盆踊り大会後に、地域の方から「寺中生が大いに盛り上げてくれて、うれしかった」「来年もぜひ出てほしい」といった感謝の言葉を多くいただくことができた。また、秋の敬老会にも参加し、寺中ソーランを披露した。地域行事に参加することで、寺津地区を愛する心がたがやされている。



盆踊り大会で寺中ソーランを披露

③ 一小一中校区の特性を生かした、小中連携の活動

ア 寺小中合同全校合唱

寺津地区は一小一中校区、しかも中学校と小学校が隣接しているため、交流しやすい環境にある。寺津小学校との交流を通して、生徒の心をたがやすことができないか考えている。

そして、「文化の集い」をその機会の一つにした。合唱コンクールでの全校合唱で寺津小学校の6年生といっしょに歌おうという企画が生徒会中心に動き出した。

曲決めの話し合いの中では、どうせなら6年生だけではなく、見に来たすべての人と歌いたい。保護者、地域の方にも、どんな曲がよいか、聞いてみようということになった。

そして、選ばれた曲は、「上を向いて歩こう」。全校合唱実行委員会を中心に、当日は6年生や参観に訪れた保護者、地域の方と一緒に「上を向いて歩こう」を手拍子に合わせて歌うことができた。歌い終えた後、会場にいたすべての人が笑顔となり、「ハッピー」なひとときとなった。



寺小児童も一緒に「上を向いて歩こう」



保護者、地域の方も巻き込んで

イ 地域教材で小中合同道徳の授業

地域の方による、地域教材をあつかった「寺小中合同授業」を企画した。この授業は、寺津小学校5・6年生と寺中生を対象に、寺津出身の語り部、田中ふみ枝様が、寺津地区の偉人を題材にして作成した資料で行われた。

「松平信綱ものがたり」という題材で、9月28日に実施した。この授業では、田中ふみ枝様から「悪いこととは知りつつも友達だから約束を守るか、守らないか」という発問がなされ、小中学生がともに考え、話し合う場を設定された。その後、「ぼくなら約束を守る」「わたしなら守らない」という考えがたくさん出て、一小一中のよさを生かし、小中学生のお互いの考えにふれ合う道徳の授業となった。



寺津地区の語り部 田中ふみ枝様

7 成果と今後の課題

(成果)

○教師の変化

- ・道徳の授業を見合う姿が出てきた。
- ・担任ではない教師も含めて、学年で、道徳の資料や展開についての話題が出るようになった。
- ・自主的に道徳の授業に関する研究会への参加を申し出る教師が数名出てきた。
- ・授業の中に、ペアトーク、グループトークを取り入れるようになった。

○生徒の変化

- ・ペアトーク、グループトークを取り入れたことで、自分の考えを発表する姿が多くなった。
- ・コの字の授業形態を取り入れるなどの工夫で、よく話を聞くようになった。
- ・ボランティアに参加する生徒が多くなった。
- ・相手のことを考えた生徒企画が増えた。

●今後の課題

- ・さらなる道徳の授業力の向上。資料を読み込む、発問の吟味、展開の工夫。
- ・授業を深める「ゆさぶりの一手」の工夫。
- ・次年度へ向けて、新しい道徳の教科書を取り入れた年間授業計画の作成。
(行事や活動も意識して)
- ・毎時間の道徳の授業での評価の積み上げ。(朱書き、声かけ)